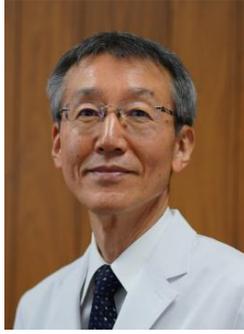


地方独立行政法人
市立大津市民病院





副理事長・院長
若林 直樹

2019年4月1日より、市立大津市民病院
院長に就任しました、若林直樹です。

市立大津市民病院は、

- “とまらない救急”で地域の安心・安全を支えるライフラインとしての役割を
はたす
- すべての領域のすべてのステージのがん
に、一貫した密度の高いがん診療を提供
する
- 院内外の連携を深め、地域完結型医療の
推進を行う
- 疾病予防・疾病管理・健康推進に向けた
地域・市民のための医療拠点となる



などのミッションを掲げ、2017年4月、創立以来約120年続いてきた
公的病院としての歴史の重みを感じながら、地方独立行政法人とし
てスタートしました。

歴代院長のもと、職員一同一致団結し、公的医療機関としての
使命と責任を果たし、急性期医療を担う地域の中核病院の役割を
担ってまいりました。このことは、職員一人ひとりにとって大きな
喜びであり、大きな自信となっています。

これまで築いてきた成果を継承するとともに、本院が更なる発展
を遂げるために、すべての職員が、本院に課せられたミッションを
常に自問自答しながら、より高い志を抱きプロフェッショナルとし
ての誇りを持って仕事を全うしてまいります。



とまらない救急

がんに強い病院



人材育成



病院理念

市立大津市民病院は、

1. 医の倫理と公立病院の使命のもとに、すべての患者さまの価値観を尊重し、生きる喜びと希望を大切にする医療を行います
2. つねに良質で、清潔で、安全な医療を行います
3. 説明と同意による医療を行い、納得される結果をえるために最善をつくします
4. 職員のひとりひとりが、つねに日進月歩の医学を学び、最高の医療を追求します
5. 時代に求められる医療体制の充実と、療養にふさわしい環境の整備に努めます

看護局理念

専門的知識を深め、洗練された技術で、患者さんの生きる力を引き出し、寄り添い続ける看護を提供します

患者の権利綱領

市立大津市民病院の職員は、患者さまの次の権利を順守して日々の医療を行います

1. 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
2. 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
3. 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
4. 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
5. 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
6. 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
7. 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

地域連携

予防医療

公立病院としての使命



救急医療



“とまらない救急” で地域の中核病院 として救急医療を 支える



救急外来「ERおおつ」では、24時間365日“とまらない救急”を掲げ、患者さんの高齢化・重症化に伴い増大する救急需要に対し、救急専門医を中心に他科医師やICUと速やかに連携して、あらゆる疾患にフレキシブルに対応しています。さらに専門各科のオンコール体制で診療にあたっています。

また、患者さんが地域に戻っても治療が途切れないよう、地域医療機関と密なコミュニケーションを築き、引き継ぎを行っています。

ICU全面リニューアル

2018年11月、新ICU稼働－6床から8床へ増床・拡充－



関西初導入：立位がとれるベッド（T425型）

早期離床・早期回復を促すための電動ベッドで、最大82度まで無段階で傾斜するチルト機構や、柔軟性のある素材で患者を支えるストラップシステムを備えています。ベッド上に寝た状態のまま安全に起立訓練を行うことができるので、より高度な早期リハビリに取り組むことを目指します。

受動座位がとれるベッド

人工呼吸患者さんも、安全性を高めた上でより積極的に早期離床・早期リハビリテーションに取り組むことを目指します。

個室

安全性を確保しつつ、プライバシーにも配慮した個室を1床から4床に増やしました。



すべての領域の
すべてのステージの
がんに、一貫した
密度の高いがん診療を



健診センターでの早期発見から内視鏡および外科的手術治療、化学療法、放射線治療そして緩和ケアにいたるまで、シームレスで集学的ながん診療を提供しています。

手術では患者さんの負担が少ない鏡視下手術を得意としており、泌尿器科領域および消化器外科領域においては、内視鏡手術支援ロボット『ダ・ヴィンチ®』によるロボット支援手術を実施し、多くの患者さんにその優れた成果を実感していただいています。

主な医療機器



内視鏡手術支援ロボット
『ダ・ヴィンチ®』

従来の腹腔鏡手術でみられた動作制限を克服し、さらに精密で体への負担が少ない手術が可能です。



放射線治療装置
『リニアック』

がんに対して、放射線の種類や強さ、範囲などを変えて、正確にピンポイントで照射できます。



320列CT

2018年3月に導入した320列CTは、短時間で広範囲の撮影が可能で、寝台移動せず検査ができます。



3.0テスラ MRI

X線を使わず、強い磁力と電波を使って、高画質な身体の断層像を得ることができます。

地域連携



院内外の連携を深め 地域完結型医療の 推進を

本院では「かかりつけ医」登録制度を導入し、逆紹介を推進しています。近隣医療機関との連携をより一層深めて、今後も“顔の見える”病診・病病連携を進めてまいります。

また、地域医療連携室・入退院センターでは、看護師や医療ソーシャルワーカーなどの専門スタッフが、入退院に関連する医療的、社会的問題を外来受診時あるいは、入院初期など早期に把握し、円滑な入院から転院・退院を支援します。

予防医療



あなたと あなたの大切な人の 健やかな 未来のために

病気の早期発見には定期的な健康診査が欠かせません。健診センターでは人間ドックをはじめ、各種検診や予防接種を行うとともに、禁煙外来も開設しています。また、難治性がんの代表とされる膵臓がんの発見に特化したコースなど、充実したメニューをご用意しています。

“市民とともにある健康・医療拠点”として、快適に安心して受診いただけるよう、さらなる充実に努めています。

人材育成



医療は人なり 病院は人なり 人は宝

医療は「人間力」なしでは成り立ちません。

『選ばれる病院』であり続けるために、“医療は人なり、病院は人なり、人は宝”をモットーに、若手医療スタッフが笑顔で輝ける病院づくりを進めています。

また、未来の医療を担う医療系大学や専門学校での学生の研修や実習も積極的に受け入れています。

公立病院の使命



“地域になくても ならない病院” として

2017年4月に地方独立行政法人として新たな一歩を踏み出しました。

“市民とともにある健康・医療拠点”をさらにグレードアップし、これからも公立病院としての使命を果たし、地域の中核病院として「治し支える医療」の役割を先駆的に担い、地域医療を支えてまいります。

看護局

患者さんの生きる力を引き出し、寄り添い続ける看護を

『専門的知識を深め、洗練された技術で、患者さんの生きる力を引き出し、寄り添い続ける看護を提供します』を看護局理念に掲げ、専門性の高い看護と、退院後の患者さんの生活を重視したケアの提供ができるよう、看護職員一人ひとりがスキルの研鑽に励みながら、毎日明るく元気に看護に取り組んでいます。



専門・認定看護師 ～看護のスペシャリスト～

市立大津市民病院では、患者さんやご家族の皆さんにより高度で専門的な看護を提供する知識や技術を深めた、看護のスペシャリストー専門看護師・認定看護師がそれぞれの専門性を活かしながら、活躍しています。

病院として資格取得に対する支援の充実を図り、より水準の高い看護を継続的に提供するための人材育成にも力を入れています。



患者中心の

Patient



医療技術局

確かな技術と専門知識で、医療の質と安全を支える



市立大津市民病院の医療技術局は、薬剤部・医薬品情報管理室、臨床検査部、放射線部、リハビリテーション部、臨床工学部、栄養部で構成されています。

患者さんに適切で安全・良質な医療を提供できるよう、それぞれの専門知識や技能を活かしながら、医師や看護師、事務スタッフなど多職種と連携しています。

各部門の紹介

薬剤部

医薬品情報管理室



臨床検査部



放射線部



リハビリテーション部



臨床工学部



栄養部



真心の医療を

First



本院ならではのチーム医療の実践



多職種カンファレンス

病棟ラウンド

リハビリテーション

一類感染症
ワークショップ実地訓練

職種や組織の枠組みを超えて、多角的かつ横断的な視点から患者さんに最適な治療を検討し、多職種で協働して診療にあたります。

また、本院は滋賀県下で唯一の第一種感染症指定医療機関です。日常の感染対策活動に加え、一類および二類感染症患者の入院対応も行っています。

災害に強い病院－災害拠点病院－



DMATカー

東日本大震災救援活動

屋上ヘリポート

院内災害訓練

本院は災害拠点病院（地域災害医療センター）です。災害発生時には地域において中心的な役割を担うとともに、災害に備えて訓練や研修等を積極的に行い、常に体制強化を図っています。また、本院のDMATカーは災害現場活動に必要な資器材を装備・搭載しており、DMATの機動力向上、長時間活動への対応力強化、通信手段の確保による迅速で的確な情報収集が可能です。

地域、市民のための健康・医療拠点



夏休みわくわく
病院体験・探検

糖尿病110番

市立大津市民病院大学
(健康講座・公開講座)

看護の日イベント

本院は「地域に開かれた病院」として、病院からの一方通行の情報発信ではなく、市民あるいは地域の医療関係者の皆さんと“顔の見える双方向の交流”を図るため、様々な取り組みを行っています。

地域とヒト、ヒトとヒト、心と心、そして命をつなぐー医療が持つ様々なものを“つなぐ”力を、次代を担う子どもたちに“つなぐ”ことが「みんなが幸せな街づくり」につながると考えています。

これからも「地域にあってよかった」、「地域になくってはならない」病院づくりを推進してまいります。

患者サポートと在宅医療への支援



患者相談支援室

ご相談者の気持ちに寄り添いながら、がんや様々な病気に関する不安や悩みのご相談に、看護師・心理カウンセラー（公認心理師）など専門スタッフが対応します。

また、がん関連の図書の閲覧など、がんに関する情報提供をはじめ、くつろぎながら資料など閲覧できる空間を提供するとともに、患者さん、ご家族の交流の場を提供しています。



訪問看護ステーション

医療的な管理を必要とされる方が、在宅においてもその医療を継続するため、主治医との連携のもと、看護師が計画的に訪問し、医療的管理やケアを行い、安心な在宅療養を支援させていただきます。

また、24時間緊急連絡対応により、夜間や休日の緊急訪問を行い、ご家族とともに住み慣れた地域の中で、最期までその人らしい療養ができるよう、在宅での看取りの支援も行っています。

主な施設・設備

患者さんが治療に専念できる快適な療養環境と、患者ニーズにハートフルな病院づくりを進めています。



特別室



個室



4床室



病棟ダイルーム



2階総合案内



外来待合

その他

- ・コンビニエンスストア
- ・入院用品セットレンタル（有料）
- ・ランドリーコーナー
- ・ATMコーナー
- ・自動精算機（クレジットカードまたは現金での診療費のお支払い）
- ・授乳室
- ・理容室

患者用Wi-Fi 救急外来「ERおおつ」や外来待合、病棟ダイルームで、Wi-Fiが使用できます。
診察待ちWeb確認システム お持ちの携帯電話やスマートフォンで、診察の進行状況が確認できます。

ボランティアとFISH活動



病院の花壇のお手入れや、院内で使用する縫製品の作成、駐車場でのご案内業務など、ボランティアさんが様々な場面で活躍されています。また、不定期で、ボランティアさんや病院スタッフによるコンサートなども開催しています。

病院の概要

開設者 地方独立行政法人市立大津市民病院
開設日 2017年4月1日 (1899年7月大津伝染病院開院)
管理者 若林 直樹 (副理事長・院長)
所在地 大津市本宮二丁目9番9号 (〒520-0804)

施設の概要

敷地面積 34,107㎡

建物延床面積

・本館棟	31,579㎡	地上9階、地下1階、屋上ヘリポート (免震構造)
・別館棟	9,653㎡	地上5階、地下1階 (消化器内視鏡センター、放射線治療棟含む)
・管理棟	1,009㎡	地上3階
・附属棟	892㎡	地上3階
・駐車場	第1 (211台) 第2 (307台)	

許可病床数 439床 (2018年11月1日より)
一般病床 431床 (緩和、難病、救急、I C U 含む)
感染症病床 8床 (1種2床、2種6床)

診療科

内科 消化器内科 消化器外科 呼吸器内科 呼吸器外科 脳神経内科 循環器内科 心療内科 精神科
小児科 外科 整形外科 脳神経外科 心臓血管外科 リハビリテーション科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科
泌尿器科 皮膚科 歯科 矯正歯科 歯科口腔外科 放射線科 麻酔科 形成外科 病理診断科 乳腺外科
救急科 緩和ケア内科

入院基本料 一般病棟 7対1

専門看護師 がん看護

認定看護師 皮膚・排泄ケア 緩和ケア 感染管理 救急看護 がん化学療法看護
糖尿病看護 訪問看護 慢性心不全看護 認知症ケア 摂嚥下障害看護

施設認定

地域災害拠点病院 (地域災害医療センター)
地域医療支援病院
救急告示病院
第一種感染症指定医療機関
第二種感染症指定医療機関
滋賀県地域がん診療連携支援病院
原子爆弾被爆者一般疾病医療機関 (医科・歯科)

周産期協力医療機関
滋賀県地域がん診療連携支援病院
中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律指定医療機関
病院機能評価3rdG: Ver. 1.1認定取得病院
卒後臨床研修評価機構認定病院
身体障害福祉法に基づく指定医療機関
指定自立支援医療機関 (育成・更正医療・精神h通院治療)
結核指定医療機関
肝疾患専門医療機関
未熟児養育指定医療機関

主な学会指導施設認定

日本内科学会認定制度教育関連病院
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本脳神経外科学会専門プログラム連携施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設拠点教育施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本神経学会教育施設
日本口腔外科学会専門医制度認定研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本病理学会研修登録施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本血液学会血液研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本腎臓学会研修施設

日本精神神経学会精神科専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本食道学会全国登録認定施設
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
呼吸器外科専門医合同委員会認定基幹施設
マンモグラフィ検診施設
日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本カプセル内視鏡学会指導施設
日本乳癌学会専門医制度関連施設
日本肝臓学会認定施設
日本臨床衛生検査技師会制度保証施設
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術実施基準における実施施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定関連施設
日本手外科学会認定研修施設
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション研修施設
日本認知症学会教育施設認定
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設
日本脈管学会認定研修関連施設
日本臨床神経生理学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本緩和医療学会認定研修施設 (2020年6月現在)

病院の沿革

明治32年(1899年)	大津伝染病院開院
昭和12年(1937年) 4月	大津回生病院が1市2箇村組合立伝染病院(大津市・雄琴村・坂本村・下阪本村)として膳所錦町字打明に開設
昭和39年(1964年) 1月	現在地に移転、大津市民病院に改称
昭和39年(1964年) 4月	救急告示病院指定
昭和53年(1978年) 7月	新館棟(現在の別館棟)竣工
昭和54年(1979年) 3月	管理棟増築
昭和58年(1983年) 5月	付属棟増築
平成 9年(1997年) 1月	災害拠点病院指定
平成 9年(1997年) 4月	訪問看護ステーション開設(市から病院へ所管替え)
平成11年(1999年) 4月	本館棟竣工(地下1階、地上9階建て免震構造、屋上ヘリポート設置)、臨床研修指定病院(医科・歯科)指定
平成13年(2001年) 4月	滋賀県難病医療拠点病院指定
平成15年(2003年) 4月	ERおおつ開設
平成15年(2003年) 6月	地域医療支援病院承認
平成19年(2007年) 8月	7対1入院基本料算定開始
平成21年(2009年) 4月	DPC対象病院に移行
平成22年(2010年) 8月	消化器内視鏡センター開設
平成22年(2010年) 10月	滋賀県地域がん診療連携支援病院指定
平成23年(2011年) 4月	臨床研修センター開設
平成23年(2011年) 10月	院内助産所開設
平成23年(2011年) 11月	健診センターリニューアルオープン
平成24年(2012年) 6月	病院機能評価認定取得(Ver.6.0)
平成25年(2013年) 4月	患者総合支援センター設置 卒後臨床研修評価機構認定取得、一般社団法人日本病院会QI(Quality Indicator)プロジェクト参加
平成26年(2014年) 1月	次期総合医療情報システム(電子カルテシステム)稼働、頭・腹部系血管造影装置稼働
平成26年(2014年) 6月	内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」稼働
平成26年(2014年) 8月	放射線治療棟建設工事竣工
平成27年(2015年) 3月	放射線治療用直線加速器(リニアック)稼働
平成29年(2017年) 2月	病院機能評価認定取得(3rdG:Ver.1.1)
平成29年(2017年) 4月	地方独立行政法人に移行、地方独立行政法人市立大津市民病院と名称変更
平成29年(2017年) 7月	小児科新生児室リニューアルオープン(別館3C病棟から本館5A病棟へ移転)
平成30年(2018年) 2月	80列CT稼働(CT室2)
平成30年(2018年) 3月	320列CT稼働(CT室1)
平成30年(2018年) 7月	病院ホームページ全面リニューアル
平成30年(2018年) 11月	関西初「トータルリフトベッド(立位のとれるベッド)」を設置した新ICU稼働(6床から8床へ2床増床)

市立大津市民病院歴史パネル展 ～地域とともに 今から未来～

市民病院120年(2019年時点)の歴史と懐かしい大津の風景のパネルを、ホスピタルギャラリー(本館と別館をつなぐ1階の廊下)に展示しています。

これからも「市民とともにある健康・医療拠点」であり続けるために、プロアクティブな視点から持続可能な病院づくりに努めます。



昭和41年(1966年)から43年(1968年)にかけて、におの浜埋立地上空から滋賀県立琵琶湖文化館、浜大津方向を望む。(大津市歴史博物館蔵)

昭和28年(1953年)4月に名称変更された国民健康保険直営大津市民病院(大津市歴史博物館蔵)
出典:「大津の展望 昭和29年版」
(昭和30年(1955年)1月10日発行)
大津市公報(大津市市政情報課保存)

昭和40年代、上空から本宮に新築された大津市民病院、浜大津方向を望む風景(大津市広報課保存)
出典:市民病院35周年記念誌

ACCESS



◆電車でお越しの場合

JR膳所駅、京阪膳所駅より徒歩約10分

◆バスでお越しの場合

JR大津駅より約10分(国道経由)
「大津市民病院前」下車

◆車でお越しの場合

名神高速道路大津インターより約5分

